

9/7 (土) 19:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

## 2019J2 ■順位表■ 暫定：第30節

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	柏	62p	+27	47	20	A●	H●
2	横浜FC	52p	+19	50	31	A●	
3	京都	52p	+13	45	32	H△	A●
4	大宮	52p	+12	41	29	A●	H△
5	水戸	51p	+17	38	21	H●	
6	山形	51p	+13	34	21	HO	
7	甲府	49p	+17	45	28	A●	
8	金沢	46p	+13	40	27	H●	A●
9	徳島	46p	+6	42	36	A●	
10	岡山	46p	-3	36	39	HO	
11	長崎	43p	+3	44	41	H●	AO
12	東京V	41p	-3	39	42	H●	
13	新潟	38p	+5	47	32	H●	
14	愛媛	35p	-5	36	41	A●	
15	山口	33p	-10	42	52	A●	
16	千葉	31p	-12	35	47	A●	H△
17	福岡	31p	-13	31	44	AO	H●
18	町田	31p	-17	29	46	H●	
19	琉球	31p	-19	40	59	HO	AO
*20	鹿児島	30p	-17	35	52	H△	
21	栃木	24p	-20	22	42	A△	
*22	岐阜	23p	-23	27	53	---	---

注)\*は消化試合が1足りない

## 次回HomeGame

第34節 vs.横浜FC

9/29(日) 18:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

## 大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）

年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

## Living in Woods

本庄工業株式会社

http://www.honjo-woodream.com/

「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休:月曜日

## today's guest : 栃木SC

2018 J2 13勝11分18敗 勝ち点50:17位

## 直近の対決と結果

2019/04/28

J2-11節@栃木グ

栃木 1-1 岐阜

山岸祐也  
scored.

## ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	栃木SC
2019/08/31 J2-30節@タビスタ 琉球 1-2 岐阜	2019/09/01 J2-30節@栃木グ 栃木 0-3 水戸
2019/08/25 J2-29節@長良川 岐阜 0-4 柏	2019/08/24 J2-29節@NDスタ 山形 2-0 栃木
2019/08/17 J2-28節@石川西部 金沢 2-1 岐阜	2019/08/17 J2-28節@栃木グ 栃木 0-0 町田

●全42試合と長い2019年J2シーズンも、気がつけば3分の2の日程を消化し、いよいよ終盤に差しかかった。8/25(日)第29節、ホームに柏を迎えたFC岐阜。最下位の岐阜としては、首位・柏を相手に粘り強く守り、数少ないチャンスでの得点に勝機を見いだしたいところだったが、個の力に優れた柏の選手に圧倒され、また安易なミスで自滅し、0-4で敗戦。試合終了後、不甲斐ない試合内容で3連敗を喫してしまったチームに対し、スタンドからは厳しい声も飛んだ。続く8/31(土)第30節・アウェイ琉球戦は、下位・16位(当時)チームとの“6ポイントマッチ”。必勝態勢で臨んだFC岐阜は、前半に#5川西翔太の2ゴールで優位に立つ。しかし、後半に1点を返されてからは守勢に回り、琉球の猛攻を何とかしのぎきって、2-1で試合終了。3試合ぶりに貴重な勝利そして勝ち点3を手に入れることが出来た。

この2試合の結果、勝ち点を23にまで積み上げたFC岐阜。順位は最下位(暫定)のままだが、21位(暫定)・栃木との勝ち点差は1に縮まった。残念ながら20位(暫定)・鹿児島が勝ち点を30に積み上げたため、J2残留圏(=20位)までの勝ち点差は7と縮まっていないが、そもそも、予想されるJ2残留ラインは勝ち点=試合数の前後だ。現時点での岐阜は、まだそのラインに到達していない。一方、16位(暫定)・千葉が勝ち点31であり、このあたりのチームまではJ2残留争いのライバルと見ることもできる。シーズンの残りは13試合。今後も毎試合を全力で戦い抜いて、勝利を、勝ち点を積み重ねていくことで、この逆境を抜け出していくしかない。

さて、今節の対戦相手は21位(暫定)の栃木SC。つまり、今節は“裏・天王山”あるいは“6ポイントマッチ”などと呼ばれる、非常に重要な一戦だ。勝てば栃木と順位が入れ替わり、J2残留ラインに近づくことも出来るが、負ければ非常に厳しい状況となる。引き分けでも厳しく、勝つしかない。FC岐阜にとっては、まさに“正念場”となる試合だ。現在の栃木は、8試合未勝利・連敗で調子を落としているが、向こうも強い気持ちでこの試合に臨んでくるだろう。激しく厳しい試合になることが予想される。

栃木との(Jリーグでの)通算対戦成績は5勝4分9敗・15得点25失点と負け越してしまっている。前回対戦の4/28(日)第11節・アウェイ戦は1-1で引き分けているが、今節は何としても勝利を掴み取らなくてはならない。

栃木の要注意選手には、まずは#9大黒将志を挙げる。現時点で6ゴール、直近10試合では1ゴールと調子が出ておらず、それがチームの不調に直結しているとも言えるが、栃木のエースであることに変わりはない。まずは、この#9大黒を自由にさせないこと、そして彼へボールを供給させないことが重要だ。5ゴールを挙げているシャドーの#10西谷和希のスピードある突破にも警戒しなくてはならない。また栃木には、前所属がFC岐阜の、#7菅和範(08~11年)、#5ヘニキ(14~15、17年)、#30田代雅也(18年)が在籍している。彼らも普段より気持ちが入っていることだろうが、今節ばかりは活躍させる訳にはいかない。

どちらにとっても“勝てば天国、負ければ地獄”の大一番。最後の一步がボールに届くかどうかで勝負の明暗が分かるような、そんな試合になるだろう。そんな試合だからこそ、僕らFC岐阜サポーターは、最後まで勝利を掴むために走り続ける選手たちを信じて、その背中を、あと一步を後押しするための拍手と声援を送り続けよう。何より、僕らはこのホームスタジアムで5/5(日)第12節以来、勝利を手にしていない。どのクラブのサポーターよりも、僕らはホームでの勝利に飢えているはずだ。勝利の歓喜と万歳四唱を選手たちと分かち合うために、彼らを支え続けよう。(ささたく)

投稿募集!! [gidaidohri@gmail.com](mailto:gidaidohri@gmail.com)

## 【第29節】岐阜0-4 柏

●日本特殊陶業サンクスマッチ。昨年に引き続き、デル・ピエロが来て、サトミキが来てと、イベント盛りだくさんの試合。そして、スタッフの頑張りで、夏休み期間とはいえ日曜ナイターなのに、9,327人もの集客は実に素晴らしい…。しかし、対戦相手は首位の柏。前回のアウェイ対戦では、相手のミスに助けられながら時間が進んで、最後に#26 オルンガにやられたって感じだったけれど。今は10連勝中とノってきたチームに勝つためには、しっかり粘り強く守備をして、わずかな隙を逃さずカウンターでゴールを奪うというゲームプランだろうと、たぶん多くの岐阜サポが考えていたんだと思う。だけど、残念ながら試合序盤から、そのプランは儂くも崩れてしまう。#9 クリステアーノがプレスで奪ったボールを受けると、ボックスからかなり遠い位置から思い切り右足を振り抜き、逆サイドのネット上に突き刺さるシュート。あれは撃った相手を誉めるしかないけれど、あんなシュートを決められて、岐阜の選手たちの動きがチグハグになってしまったような気がする。距離を詰めすぎるとかわされ、離れると撃たれるというジレンマ。そんな中で、次々とゴールを決められ、前半だけで3失点。攻撃も機能せず、岐阜が効果的に撃てたシュートは#38 塚川孝輝のミドル1本ぐらいだったかなあ…(溜息)。後半は、ハーフタイムに北野監督の檄が飛んだと思われ、岐阜も徐々に攻撃の勢いを増してゆく。だから、あのボールは決めてくれ#39 馬場賢治…#29 バホスと交錯しそうになったのが原因だと思うけれど、あれを決めないと柏に勝てるはずもないし、スタジアムも盛り上がらない。そして、緊張の糸が切れてしまったのか、#34 北谷史孝が自陣でのFKを#26 オルンガにプレゼントしてしまい、4失点目…(溜息)。これで試合は、ほとんど決まってしまった。意地で1点を返すことも出来ず、0-4の大量失点で完敗。首位チームが相手とはいえ、ホームでの不甲斐ない試合内容にブーイングも聞こえたり、途中で帰ってしまった人も多んじゃないだろうか。

選手たちには、反省すべき点はしっかりと反省して、気持ちを切り替えて次の試合に向けて準備して貰うしかない。どんなチームが対戦相手でも、勝てば勝ち点3は取れるのだし、大量失点したとしても勝ち点が減られることはないのだから。(ささたく)

●長良川からの帰り道。突然「あのミス、このミス、日が暮れる〜♪」という歌詞が脳内に浮かんだ。それもメロディ付きで。なんだっけ？この歌、とググってみたら野口雨情作詞、中山晋平作曲の『あの町、この町』だった。こんな懐かしい動揺、もとい、童謡が浮かんでくるくらいには昭和なワケだが、そんなオカシな方向へ回線がつながるくらいにキツイ敗戦だったのかもしれない。これだけの観客が集まって、ゴール裏のコレオ、スポンサー様謹製のフラッグがあればほど映えた一戦でアノ内容である。せめて、一点ぐらいは……と、今でも思う。その機会は十分あったはずなのだ。初めて観戦した人や久しぶりの観戦だった人は、あの試合の後でも「また来よう。」「来てもいいな。」と思ってくれるだろうか。アレックスロ氏は来年も親友に会いに来てくれるだろうか。こんな状況、順位でイベントやってる場合か？という意見もあるようだが、自分としては異を唱えるつもりは毛頭ない。逆に、スタッフはよくやってる、もっとやれ！と思うくらいだ。イベントが楽しかったからという理由で勝ち負けに関係なく「また、来よう。」と思ってくれる人がいてくれるとありがたい。ただ、やはり、最高のエンターテイメントは勝利だとも思う。そんな中で、現在10連勝中という首位の柏相手に、実力、戦力とも後れを取る最下位がミスを連発したら勝てないのは仕方のない話。ただ、ミスがなかったら勝てたのか？39番のシュートミスも34番のパスミスもあってはならないプレーだが、過去にも何回か(ウチで、ということではなく)見たことのあるケース。勝敗を分けたのはミスだけでないことは試合を

見ていた人ならわかるはず。ポジショニング、フリーラン。パスの精度やスピード。いろんなところに差があったように見えた。ゴール裏から声援を送っている者がこんなこと言うと怒られるかもしれないが、サッカー的には楽しめた気がする(苦笑)ひとつひとつのテクニクや連携が素晴らしかった。こんなクラブが、なんでJ2降りて来るの？ホンット、迷惑な話だね(笑)とつとつとJ1戻って、また昇格即優勝すればいいんじゃないかな？とにかく、柏さんには今後対戦する残留争いのライバルにも大量得点で勝ってもらえれば、それでいい。

ウチとしてはこの敗戦を糧にして、次節以降に臨んでほしいとだけ伝えたい。3点差をつけられた後半には決定機も3回あった。柏のようなパスの精度やスピードがないために決定機に持っていけなかったが、チャンスの芽も作れていたような気もする。もちろん、それは柏がシフトダウンをして流していたからかもしれないし、一点でも取っていたら、またギアを上げて点を取りに来たかもしれない。それでも、出来たこと、よかった形の練度を高めて、次節のアウェイ琉球戦に臨んでほしい。遠距離のアウェイ、ホームに強い実績のある相手だが、残留争いのライバルでもある。ここで勝たなければJ2の陽が本当に暮れてしまいかねない。及ばずながら現地へ駆けつけて精一杯の声援を送るつもりだ。今度こそ、みんなで万歳四唱をやりましょう！(ぐん)

## 【第30節】琉球1-2 岐阜

●シーズン終盤に入り、下位(といっても16位なのだけれど)の琉球との一戦。ここで勝てないと、今後のJ2残留争いで非常に厳しい状況に追い込まれることになる、重要な試合。そして夏休み最後の週末・土曜開催しかもアウェイ沖縄と要素が揃ってますから、なんと300人もの岐阜サポが集まったのだとか。みんな好きだねえ…まあ僕も他人のことは言えないのですが(苦笑)。しかも、1週間前には大雨の天気予報だったのが、当日は晴れ。暑かったけれど、豪雨よりはマシです。さて、前節では柏に大量失点して敗れた岐阜。もちろん首位・柏と琉球とでは実力も異なるけれど、守備の立て直しに重点を置き、スタメンも入れ替えてきた。実際、試合の序盤から岐阜の守備ブロックがきちんと機能していた。そして、ボールを奪ってからはカウンターを仕掛ける狙い。しばらくはこのまま膠着状態が続くのかなと僕は思っていたんだけれど、序盤から試合は動く。11分、ロングボールの処理を琉球DFがミスした際に今季初スタメンの#8 フレデリックが奪い、折り返したボールを#5 川西翔太が中央で振り抜いて貴重な先制点!!この大事な試合で、早い時間に、先制点…しかも、#5 川西は指を突き上げて『13』のサインをしてたんだね。9年前の8/28に亡くなった、永久欠番・桐山周也君に捧げるゴール(泣)。そんなんされたら、惚れてまうやろー!!(笑)それと、そういった事を今も選手たちにしっかり伝えているフロントも素晴らしい。

さて、失点した琉球は攻勢を強めてくるから、これを下手に受けるとバランスを崩して押し込まれる…と不安に思った僕の予想は良い方向に裏切られて(苦笑)、その後も岐阜の守備ブロックは、琉球の攻撃をしっかり跳ね返す。琉球は、札幌から移籍した#7 小野伸二が、まだチームにフィットしていなかったのかな？前半は、彼にボールを集めて、右サイドからの攻撃ばかりで、岐阜の選手たちも守りやすかったのではないかなと。そうしていると、41分に再びカウンターで#5 川西が敵陣中央でボールを受けると、自分の前にDFが3人いてコースをふさいでいるにも関わらず、股抜きシュートで追加点!あのコースしかないという所を見事に撃ち抜くゴール。PA少し前、あのエリアはやはり“川西ゾーン”と名付けるべきだと思う(笑)。

2点差で前半を終了。しかし、『2点差は危険なスコア』ましてや岐阜サポの間では3点差でも危険だという説がありまし

て（苦笑）。当然ながら琉球もハーフタイムに修正して攻撃を強めてくる。それは覚悟していたけれど、岐阜に移籍後初出場の#50 當間建文が交替してからの約25分が、まあ良かったこと…『岐阜サポ真夏の肝試し』と呼びたいくらい（苦笑）。変化をつけてきた琉球の攻撃に圧され、DFラインが下がり、守備ブロックを突破される。ボールを奪った後、シンプルにクリアすれば良い場面と、ボールを繋いで相手のプレッシャーをかわせば良い場面の判断が悪く、セカンドボールを簡単に琉球に渡してしまい、守備に追われる時間が続く。失点シーンもクリアミスから自陣ゴール前で奪われてのもの。そして、このゴールで1点差に追いついて勢いを増す琉球の攻撃陣に対し、さらにラインを下げてしまう岐阜の守備陣。何度も決定機を与えてしまうが、琉球のミスに助けられ、あるいは最後のところで何とか跳ね返す時間が、永遠かとも思われるぐらいに続く。長いアディショナルタイム、最後の最後の琉球のFKも、反対側から見てたらスタンドが沸いたから入ってしまったのかと絶望しかけたけれど、なんとかボールをかき出したところで試合終了の笛…ホント、生きた心地がしなかったですよ（溜息）。

ホントにギリギリ、首の皮一枚つながった状態での勝利。でも、J2残留争いをしている今の状況では結果が何よりも大事。だから、勝って本当によかった。後半の内容に関しては思いつき反省してもらい、次の試合に活かして欲しい。そして、アウェイで勝利して後泊というのは、楽しく夜が迎えられます（笑）。負けるとホテルに引きこもりになります（苦笑）。翌日、快晴の沖縄を楽しんだ岐阜サポも多かったことでしょう。

さあ、琉球戦も正念場と言える試合だったけれど、今節の栃木戦は、さらに輪を掛けて正念場です。今節も必ずや勝利を！そのために今節も全力を尽くします！（ささたく）

●この日の「タピック県総ひやごんスタジアム（比屋根と書いて「ひやごん」と読む。スタジアムのある場所の地名。ちなみに名字の場合は、そのまま「ひやね」と読むのだとか。ウィキペディアより。）に集まった観客は6,163人。そのうち、ホームチームを応援していたのは5,800人ぐらいじゃないかな？つまり、三百人を超える岐阜サポがスタジアムに集結していたというコト。今季一番遠い、しかも基本的に空路でしか訪れることのできない（まあ、中には船で来た猛者もいるかもしれない。が、当然飛行機より時間も運賃もかかってしまう）アウェイにこの人数。J参入の頃を知っている者の一人として感慨深いものを感じてしまった。ちゃんと地域に浸透しているんだなあ、と。自分がセントレアから乗ってきた機内にも見知った顔、また顔。半分とは言わないまでも三割から四割近くが岐阜サポだったと思っている。たぶん、自分同様にリーグ戦の日程発表と同時にチケットを押さえた人たちに違いない。どんだけ、楽しみにしていたんだよ、と。ただ、こんな順位で沖縄遠征に向かうとは予想だにしていなかったことは想像に難くない（苦笑）。

そんな、一種異様な感じさえする遠征サポの熱気に押されたのか、前半から優位に試合を進め2点リードでハーフタイム。3点差でも危険なスコアと知っている岐阜サポでさえ、思わず快哉を上げ、小さくガッツポーズしてしまうような展開。それにしても、いったいどういうヤツなんだ？川西翔太とかいう選手。これで、九州でのアウェイは全部2得点だよ。『ゼツタイ、九州勢倒すマン』か？大分に所属していたせいなのか？先制点は多分に『ごっつあんゴール』だったけれども、2点目なんかバクスタから見てても「ソコしかない」というコースを狙って打ってる。しかも、相手DFの股間。向こうのGKが気の毒になったよ。心底拝み倒したい気分だ。もう、『戦術・川西』でいいやん。

でもね、これでクリーン・シート、無失点で終われないのが今のうち。それも、正直「審判のおかげ」と擲擲されても仕方がないような薄氷を踏む思いの試合。あんなにアタフタしなきゃならないものかね？失点シーンも、セーフティにクリ

アすればいいものを、なんとか繋げようとしてのミス。そのうえ、プレッシャーのないフリーな状態で浮き球をヘディングで跳ね返して相手に渡すとか、もうチグハグすぎて頭抱えなくなる場面が多々あった。これが最下位のメンタルなのかな？勝った後だからこそ声を大にして言いたい。「こんな試合をしてたらダメだよ。」と。存在感を出してた當間が交替したから？アベちゃんも入れて5バックで守りを固めたはずなのに。その辺りは十二分に反省、検証をお願いします。声援が足りなかった？五百人とか千人行かないとダメなのかな？しかし、今はゼイタクは言ってもらえない。内容よりも結果が大事。とにもかくにも勝ち点3を得たからこそ、次節の栃木戦で『最下位脱出』に王手が掛けられる状態になった。まちががなく、今季一番の6ポイント・マッチ。まさに『負けられない試合』がやってくる。今度こそ、長良川で凱歌を！共に戦いましょう！（ぐん）

●試合終了の笛が鳴った時、ぐったりと倒れ込んでしまった。なんでこんなに苦戦する試合になってしまったんだろう。勝ち点3を得てこんなに憂鬱になったのは初めてかもしれない。実はぼくは先週は四国にいたので徳島 vs 琉球を鳴門で観ていた。前半は圧倒的な琉球の試合だったけれど、後半途中から琉球DFのキレがなくなって、十字砲火のような徳島の攻撃の前になす術もなく6失点。だから、この試合の岐阜も後半勝負に行けば同じようにいけるんじゃないか、と思った。

でも、前半は岐阜の2-0。いずれも琉球DFがルーズになったところを川西がしっかり決めてくれた。でも、琉球にチャンスがなかったわけではない、というかチャンス数は琉球の方が多かったんじゃないか。攻撃のスウィッチャーは左の富所。彼のところに縦パスがとーんと通るとそこから一気にフィニッシュまで仕掛けて来る。ホントに怖かった。

岐阜は後半途中から塹壕戦。低い位置でしっかりしたブロックを敷き、琉球の攻撃陣の侵入を遮断。おお、こんな守備が出来るようになったんだ……とポジティブに受け止められたのは、ここまで。じわじわと、ラグビーのスクラムトライ狙いのように押し込んでくる琉球。やがて岐阜の塹壕線はペナエリアのあたりにまで下がってしまった。圧力に負けておぼろげに引いているだけ。そして、それまでDFにかなりの安定感をもたらしていた當間が交代で下がってしまうと、展開されたのは先週の鳴門の逆、琉球の十字砲火に無残にさらされる岐阜守備隊の姿だった。ほんとに、息もたえだえに逃げ切った……のかは議論の余地のあるところ、ラストプレーの混戦。岐阜のゴールは割られているかいけないかと言ったら、おそらく割られていた。でも、あれはVARかゴール横の審判（海外の試合で審判6人体制の試合はたまに見ることがある）がないと判定は無理だっただろう。『誤審』ではなく『現在の審判体制の限界』。琉球側はつらい判定だったと思うけど、今回は岐阜にラックが傾いた。

そんな試合だったから、勝ち点3ゲット！さあ反撃だ！……とポジティブ全開の気分にはなれない。とてもなれない。こういう神経戦のような試合をモノにするカラダとアタマとココロのタフネスが揃った時、ようやくその先に『残留』という光が見えてくるのだろう。（吉田鑄造）

## 9/6 時点の J 3 順位表。

1	群馬	38p	+18	40	22	残り 13	★2019 ライセンス
2	藤枝	38p	+8	29	21	残り 13	
3	熊本	38p	+6	30	24	残り 13	★2019 ライセンス
4	北九州	37p	+11	29	18	残り 13	★2019 ライセンス
5	C 阪U	33p	-1	33	34	残り 13	
6	鳥取	32p	-2	33	35	残り 13	★2019 ライセンス

『岐大通』ではFC岐阜のJ2残留が決まるまで、J3情報を掲載していきます。（編集人：吉田鑄造）

